資料４

小柴自然公園の整備　誰もが楽しめる公園を目指して

環境創造局公園緑地整備課特別整備担当

小柴自然公園について

日本海軍の基地からアメリカ軍の基地へ、平成17年に返還

面積55.8ヘクタール（金沢動物園やこども自然公園と同じ規模）

整備完了は令和14年度ごろを予定

今年7月30日に一部を公開済み（1.5ヘクタール）

第1期エリア（約１３ヘクタール）を令和４から５年頃に開園を目指す

小柴自然公園のエリア図

第1期、緑の広場空間創造エリア

第2期、里山空間再生エリア

第3期、活動・体験・学習エリア

自然体験・学習などをメインに、個人利用だけでなく、学校の遠足などにも使われることを想定した大型公園です。

公開エリアの写真

第1期エリアの平面図

南北に約1キロメートルでほぼ平坦（埋め立て地）

遊具広場について

ヒアリングの経緯

市内で活動されている４団体からヒアリングした。

ヒアリング団体

横浜市総合リハビリテーションセンター、一般社団法人ラシク045、横浜市心身障害児者を守る会連盟理事会、横浜障害児を守る連絡協議会(小学生部会)

主な意見

遊具について

車いすのままでも遊べる遊具がほしい。

遊具の難易度でゾーン分けすると周りを気にして遊びづらい（対象年齢より低い遊具で遊ぶこともあるため）

広場空間について

休憩スペースや木陰が多いほうがよい。（体力を消耗しやすい子もいるため）

遊ぶ場所の中にも休憩スペースがあったほうがよい。

クールダウンスポットは他の遊び場と距離があるほうがよい。

音の出る遊具の配置は配慮したほうがよい。（音に敏感な子どももいるため）

周りに外周柵があったほうがよい。（子供が飛び出して行ったりする心配がないように）

トイレについて

近くのトイレは利用できるように工夫してほしい。

大型のおむつ交換台がほしい。（車いす利用の子はおむつ利用が多いため）

着替えをできるスペースがあったほうがよい。

鍵を二重でつけてトイレ中にドアを開けることがないようにするとよい。

順番待ちの位置が分かるように足跡マークや並ぶ列がわかるマークをつけるとよい。

サインについて

初めての子でも遊び方が分かる案内がほしい。

文章ではなく、絵やマークなどで、一目で分かる案内がほしい。

小柴自然公園遊具広場コンセプトシート

インクルーシブの考え方を導入した大型遊具広場

全ての子供が同じ空間で体験や景観を共有できる機会を得ることができる。

多様な子供がともに利用できる遊具

全ての子供のチャレンジを促す

落ち着ける場所がある

子供の行動特性に配慮した誰でもわかりやすいサインや案内

小柴自然公園遊具広場計画案

市内の関係４団体にヒアリングを実施、具体的な整備内容を検討した。

日よけ休憩空間

緑陰を設ける。

多様な休憩スペースを配置

小型パーゴラ、幅広のベンチ、サポートベンチ

アクティブ系遊具

インクルーシブ配慮遊具

夏季利用に配慮し木陰を多く配置。

インクルーシブ可動遊具など

開園に向けて着実に整備を進めて参ります。